

KOSHIN

ガソリンエンジン 取扱説明書

K180
K210



このたびは、弊社製品をお買い上げ
いただきましてありがとうございます。

この取扱説明書は、正しく安全にご使用
いただく為の注意事項が記載されています。
ご使用前に必ず本取扱説明書をお読み
いただき使用方法を理解してください。
誤った使用方法は、事故・怪我の原因と
なります。

取扱説明書は、大切に保管し、何時でも
見られるようにしておいてください。

* エンジンの改良等により、本書の内容と
異なる場合がありますので、御了承ください。

目 次

1.安全上のメッセージ	1
2.パーツの説明	2
3.燃料及びエンジンオイルについて.....	3
4.エンジン運転前の点検	4
5-7.エンジンの始動・停止方法 ...	5・6
8.手入れの仕方	7
9.点検・整備	8
10.不具合点検要領	9
11.長期保管	9

1.安全上のメッセージ

⚠ このマークが記載の内容は、安全上非常に重要なことですので必ず守ってください。

⚠ 禁止事項

- 本取扱説明書を理解していない人にエンジンの操作をさせないでください。
- エンジンは、室内及び換気の悪い所では運転しないでください。
(排気ガスには、無臭で有害な一酸化炭素が含まれています)
- 可動部や、回転部には、手や足を入れたり近づけたりしないでください。
(出力軸周辺及び作業機との連結ベルト部には必ずカバーをしてください)
- 火の近くや、ストーブ、炉、湯沸器などの口火や火花を使った器具の近くでは、ガソリンを保管したり、こぼしたり、使用したりしないでください。(爆発の危険があります)
- 燃料の補給は、屋内や換気の悪い所ではしないでください。
- 燃料補給時のくわえタバコは厳禁です。
- エンジンの運転中や、停止後すぐの熱い間は、燃料タンクの蓋を外したり、燃料補給をしないでください。(燃料の補給は、運転停止後2分間以上冷却した後、行ってください)
- ガソリンがこぼれた時や、ガソリンの臭いがしたり、爆発の危険性がある時には、エンジンの運転はしないでください。
- 燃料タンクに燃料を入れたまま、自動車の荷台等に乗せて運搬しないでください。
(燃料がこぼれて火災になることがあります)
- チョークレバーを閉位置にしてエンジンを停止させないでください。
- エンジンの設定回転をむやみに調整しないでください。
- 点火プラグを外したまま、火花の確認をしないでください。
- マフラーやエアクリナーカバーを外したままエンジンを運転しないでください。
(特にマフラーは、取付けネジの弛み、破損や漏れを定期的に検査し、異常があれば修理・交換してください)
- マフラーの中や周りに、草や葉及び可燃物を付着したままエンジンを運転しないでください。
- 始動時や運転中に高圧コードや点火プラグキャップに触れないでください。

⚠ 注意事項

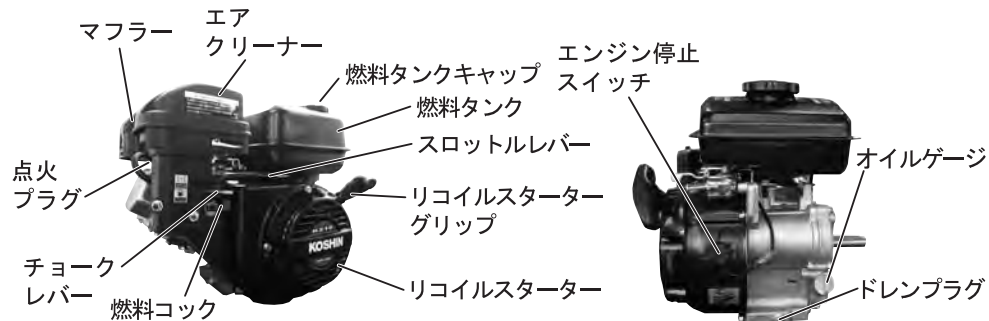
- 燃料系統の部品は、たびたび点検し、ひび割れや漏れがないかを確認し、必要であれば交換してください。
- 冷却フィンやリコイルスターターの周囲から、ゴミ、草及びその他のくずなどは、取り除いてください。(その場合、必ずエンジン及び作業機が停止しエンジンが冷めた状態で行ってください)
- 火傷の恐れがありますので、熱くなっているマフラーやエンジン各部を触らないでください。
- ガソリンは常に新しいものを使ってください。
(古いガソリンの使用は、気化器内部に粘着物が付着する原因となり、運転不調を起こす恐れがあります。)
- 純正部品を使用してください。もし、純正部品以外を使用した場合、エンジンが故障したり、早期に磨耗する恐れがあります。
- この取扱説明書で示す重要な安全指示事項は、起こりうる全ての状況や状態を表しているものではありません。エンジンの安全性には、十分気を配っておりますが、運転する方や、保守する方も安全には十分な注意、配慮をお願いします。

⚠ 警告事項

- 当社エンジンには右記に示す場所に、特に重要な危険事項に対し注意ラベルが貼付されています。使用に際しては、十分に理解の上、守ってください。
- 注意ラベルが見にくくなった場合や、はがれた場合には張りかえてください。



2.パーツの説明



3. 燃料及びエンジンオイルについて

燃料

- ・燃料は、自動車用無鉛ガソリンを使用してください。(有鉛ガソリンは使用しないでください)
- ・一度購入したガソリンは、30日以内にご使用ください。
古いガソリンは使用しないでください。故障の原因になります。
- ・ガソリンにアルコールなどは混ぜないでください。
- ・燃料タンクに注入する時は、あふれさせないようにしてください。
(上部数センチ空間を開けてください)

⚠ 注意事項

- ・ガソリンは火気により爆発の危険があります。火気には十分注意をして取扱願います。

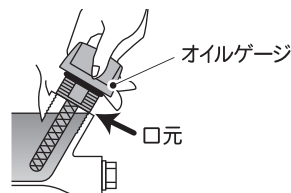
エンジンオイル

⚠ 注意事項

- ・エンジンには、出荷にあたってはエンジンオイルは入れておりません。
エンジン始動の前には、必ず下記の要領でオイルの点検を行ってください。

●オイル注入の仕方

- ①オイル注入時及び点検時は、エンジンを水平に置きます。
- ②エンジンオイルは注油口の口元まで補給してください。
※オイル量はオイルゲージを見て調整してください
オイル量は、オイルゲージをねじ込まずに点検します。
(右図参照)



- ③エンジン始動前には、オイルゲージをネジでしっかり締め付けてください。
 - ・エンジンオイルは下表及びP7-8のオイルについての記述を参照して、交換・追加を行ってください。
 - ・オイルは、高品質で清浄性のあるAPI分類SE級以上のオイルを使用してください。
 - ・推奨オイルには、市販の添加物を加えないでください。また、オイルにガソリンは絶対に混ぜないでください。
 - ・マルチグレードオイル使用の場合は、オイルの消費量が増えますので、通常より油量の点検を頻繁に行ってください。

シングル グレード オイル	10W	20W	20#	30#	40#			
マルチ グレード オイル	10W-40	10W-30	5W-20					
気温 °C	-30	-20	-10	0	10	20	30	40

4. エンジン運転前の点検

⚠ 注意事項

エンジン運転前には必ず点検してください。

①燃料の点検

- ・ガソリンは入っていますか？
- ・古くなったガソリンを使っていますか？
- ・P3の「燃料及びエンジンオイルについて」の項目に従い正しい燃料を補給してください。
- ・燃料タンクキャップは確実にしめてください。

⚠ 注意事項

- ・燃料補給時はもちろん取扱時には、火気には十分気をつけてください。火災・爆発の原因になります。

②エアクリーナの点検

- ・エアクリーナエレメントが汚れていませんか？
- ・エアクリーナエレメントが汚れている場合はP7の「手入れの仕方」P8の「点検・整備」に従い、点検・整備をしてください。

③エンジンオイルの点検

- ・エンジンオイルは規定量入っていますか？また、汚れていませんか？
- ・オイルが少なかったり、汚れていたり、指定時間以上使用している場合は、P3の「燃料及びエンジンオイルについて」及びP7の「手入れの仕方」に従い点検・整備をしてください。

④各部締付けネジの点検

- ・各部のネジは締まっていますか？
- ・マフラーの締付けネジは、必ず点検してください。
(この時、マフラーが熱くないことを確認してから行ってください)

⑤各部の点検・清掃

- ・マフラー周辺に草や葉及び可燃物等が付いていませんか？
- ・リコイルスターターの空気取り入れ口の周りに草や葉及び可燃物等が付いていませんか？
ゴミ等が付着している場合は、必ず取り去ってから運転してください。

⑥燃料もれ・油もれの点検

- ・燃料もれや油もれはありませんか？異常のあった場合は整備を行った後ご使用ください。
- ・燃料及びオイル容量：燃料タンク容量 3.6L オイル容量 600cc

5. エンジンの始動

1. 燃料コック(下側のコック)を「ON」の位置まで回してください。



2. エンジンの始動
エンジンスイッチを「ON」位置まで回してください。



3. スロットルレバーを高速(うさぎマーク)側にしてください。



4. チョークレバー(上側のコック)を「CHOKE」(閉)の位置まで回してください。
(夏季は少し開いてください)



5. リコイルスターターグリップを握り、本機をしっかり押さえ、勢いよく引いてください。

⚠ 注意事項

リコイルスターターグリップがエンジンに向かってパチンと跳ね返らないようにしてください。スターターを傷つけることがないように、グリップを徐々に戻してください。



リコイルスターターグリップ

6. エンジンの運転

⚠ 警告事項

1. 始動後、エンジンの調子をみながら徐々にチョークレバーを「RUN」(開)の位置にしてください。
2. 暖気運転(約5分)をした後、スロットルレバーは高速側で、ご使用下さい。



スロットルレバー



7. エンジンの停止

緊急時にはエンジンスイッチを「OFF」の位置にしてください。正常時には下記のようにしてください。

1. スロットルレバーを右に押しして低速位置(亀マーク)にしてください。
2. エンジンスイッチを「OFF」位置にしてください。



3. 燃料コック(下側のコック)を「OFF」の位置にしてください。

燃料コック



⚠ 注意事項

高速状態での急停止は禁止されています。これを行うとエンジンが損傷する場合があります。

8. 手入れの仕方

⚠ 注意事項

- ・エンジンをいつも安全に調子よく使い、長持ちさせるには、日常の手入れが大切です。点検一覧表を参考にして、指示通り点検・整備を行ってください。

点検一覧表

項目	時間			
	毎回	25時間毎	50時間毎	100時間毎
各種ボルトナットの点検締付け	○			
エンジンオイルの点検・補給	○			
エンジンオイルの交換		●初回のみ	○	
燃料もれ・油もれの点検	○			
エアクリーナーの点検・清掃	○			
リコイルスターター周辺の清掃	○			
マフラーカバー周辺の清掃	○			
点火プラグの点検・清掃			○	
燃料コックの点検・清掃			○	
燃料室カーボン落とし				◎
バルブ隙間の点検・調整				◎
燃料パイプの交換	3年（但し、必要に応じ交換してください）			

◎印の項目は、高度な技術や工具等が必要ですので、販売店に依頼してください。

⚠ 点検時注意事項

- ・点検・整備は、水平な明るい場所で行ってください。
- ・不意な始動を防ぐため、点検・整備時は、点火プラグの配線を外しておいてください。
- ・運転直後は、エンジンが熱くなっていますので触らないでください。
- ・燃料(ガソリン)取扱時は、火気厳禁です。
- ・燃料やオイルがこぼれている時は、きれいにふき取ってから使用してください。
- ・エンジンを水洗いしないでください。
- ・むやみに設定回転数を変えないでください。(販売店にお任せください)
- ・定期点検一覧表に示す点検時間は、あくまで一般的な使用状態における推奨時間です。使用される作業機・使用場所によっては、藁くずや砂埃の影響でエンジンの調子が悪くなる場合があります。そのような場合には、作業中においても作業を中断して安全な場所で点検・清掃を行ってください。

9. 点検・整備

運転前の点検・整備

●エンジンオイルの補給

毎運転前に必ずオイル量を点検し正規油面まで補充してください。
汚れている場合は交換してください。



●各部の清掃・点検

マフラーカバー周辺の清掃・・・ゴミ等は取り除いてください。
各部ボルトナットの点検締付け・・・マフラナットのゆるみはありませんか？
リコイルスターター周辺の清掃・・・ゴミ等は取り除いてください。
燃料こぼれ・油もれの点検・・・こぼれた燃料はよくふき取ってください。

●エアクリーナーの点検

エレメントの汚れがひどいとき、及びオイル分がなく乾いているときは、白灯油で洗浄後エンジンオイルに浸し、片手で固く絞ってください。

⚠ 警告事項

- ・火気厳禁です。

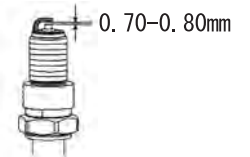
初回25時間目・50時間目の点検・整備

●エンジンオイルの交換

(初回のみ25時間目)エンジンが暖かいうちにドレンプラグからオイルを抜き取り、新しいオイルと交換してください。

●点火プラグの清掃

電極に付着のカーボンを取り除き、紙ヤスリで磨いて、電極隙間を調整します。

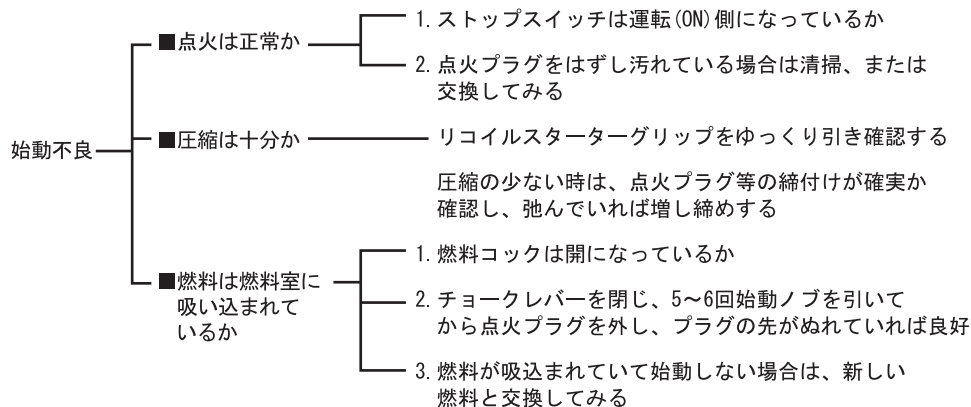


⚠ 警告事項

- ・熱いオイルが体にかかると火傷する恐れがありますので十分に注意してください。

点火プラグ品番： LG F6TC (NGK:BP6ES チャンピオン:N9YC)
※工進専用の為、工進アフターサポートへ問い合わせ下さい。

10. 不具合点検要領



・以上の点検をしてもエンジンが始動しない場合は、販売店または整備工場で点検してもらってください

11. 長期保管

エンジンを30日以上お使いにならない時は燃料の変質による始動不良等を防止するために気化器内の燃料を燃料ドレンネジを緩めて抜いてください。また、燃料コックから燃料タンクの燃料を抜いてください。

⚠ 警告事項

- ・この時、燃料の取扱には十分注意してください。
- ・火気厳禁です。

点火プラグを外して、シリンダ内にエンジンオイルを2~3cc注入し、クランク軸を数回回して点火プラグを取付け、圧縮のあるところで止めてから、保管してください。

外面は油のしみた布で清掃しないでください。

⚠ 注意事項

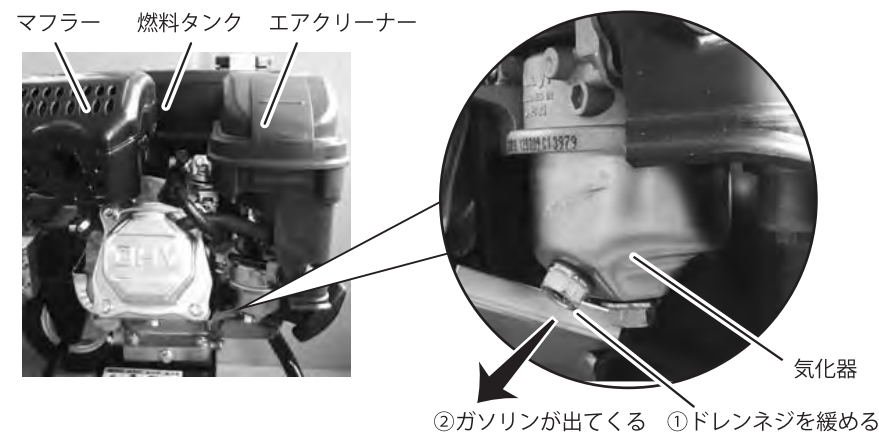
- ・水洗いはしないでください。

湿気の少ない場所に保管してください。

長期間(1ヶ月以上)使用しないときのお手入れ

※長期間(1ヶ月以上)ご使用にならない時は燃料タンクとエンジン気化器の中のガソリンを必ず抜いてください。ガソリンを抜かずに長期間放置するとガソリンが劣化し始動不良または運転不調の原因になります。

- (1) 燃料タンク内のガソリンを全て抜いてください。
- (2) 低速で運転(空運転不可)して、ガソリンを使い切ってください。
- (3) 気化器のドレンネジを緩め、内部のガソリンを全て抜いてください(イラスト①②参照)
- (4) 点火プラグを外して、シリンダ内にエンジンオイルを2~3cc注入し、クランク軸を数回回して点火プラグを取付け、圧縮のあるところで止めてから、保管してください。



取り扱いのポイント

- ・ガソリンは自然に劣化しますので、必ず抜いてください。
- ・オイルは自然に劣化します。使用しない場合も定期的に交換してください。(目安として6ヶ月に1回程度)



警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こす可能性があります。

ガソリンを抜くときは

- ・エンジンを停止してください。
- ・火気を近づけないでください。
- ・換気の良い場所で行ってください。
- ・ガソリンはこぼさないように抜いてください。
- ・万一こぼれたときは、布切れなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。